

補聴と聴覚活用を語る 第16回サマーフォーラム2014 in 横浜

【期日】 2014年7月20日(日曜日) ~ 21日(月曜・海の日)

【研究会会場】 ウィリング横浜(横浜市港南区上大岡西1-6-1)

<1日目> 7月20日(日)

9:45 受付開始

10:15 オリエンテーション

10:30 研究発表

「聴覚を活用する聴覚障害学生の疲労感に関する研究」鈴木祥隆(筑波大大学院)

「人工内耳症例-初期マッピングについて」井上理絵(北里大学病院)

11:30 補聴器アップツアードイト「デジタル補聴援助システム Roger」

川津 潤(フォナック・ジャパン株式会社)

FMシステムが抱える課題の一つ「チャンネル干渉」を克服し、また非常に騒がしい環境でも、従来のFMよりも更に聞こえの改善を実現した新しいデジタル方式の補聴援助システム『Roger(ロジャー)』と、Roger/FMマイクを使用する際の注意点などを紹介する。

12:15 昼休み

13:15 記念講演 「遺伝子と難聴」

宇佐美 真一(信州大学医学部耳鼻咽喉科講座)

先天性難聴は出生1000人あたり1人生まれる頻度の高い病気で、そのうち半数以上は遺伝子に関することが明らかになってきました。したがって難聴の原因を特定し、その後の適切な治療法を考えるためには、遺伝子を調べることが重要になってきました。わが国では、2年前より先天性難聴の遺伝子診断が健康保険適応になりましたが、その結果、難聴の原因が科学的に解明され、難聴の程度の予測、進行性の有無、合併症の推測、オーダーメイド治療や予防について有用な情報が得られるようになりました。一方治療面では人工内耳医療が急速に進歩しています。最近わが国でも小児人工内耳の適応基準の改訂が行われ人工内耳の低年齢化、両耳装用が進んでいます。また残存聴を活用する新しい人工内耳も承認され、人工内耳の適応が拡大しつつあります。講演では、先天性難聴の遺伝子診断の現状と人工内耳医療や療育にどのように利用するかについて紹介します。

15:15 休憩

15:45 分科会

「聴覚活用における保護者支援」「補聴器」「人工内耳」「軽度・中等度難聴」

に分かれて

17:00 全体会・フリートーク

分科会報告を受けて、日ごろの思いを語り合しましょう

17:50 1日目終了

18:30 懇親会 レストラン「ル・パン バーラヴァン」 ※希望者のみ

<2日目> 7月21日(月)

9:15 受付開始

9:30 レクチャー1「聴覚情報処理と視覚・触覚・運動・情動との関わり」

柏野 牧男 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

聴覚情報処理は、耳から大脳皮質聴覚野にいたる聴覚主経路だけでは完結しない。視覚、触覚など聴覚以外の感覚系や、音声生成や身体動作などに関わる運動系、さらには、自律神経系や内分泌系、大脳辺縁系などの情動に関わる系とも密接に関係している。これらの特性とメカニズムについて解説する。

10:30 休憩

10:45 レクチャー2「聴覚活用の意義を問い直す

～情動交流と環境認識との関わりから」

中村 公枝 (前国立障害者リハビリテーション学院)

新生児聴覚スクリーニングにより、0歳での早期発見と早期ハビリテーションが可能になった今、臨床現場では高度・重度難聴だけでなく軽中等度難聴、片側難聴への対応も必要とされている。また人工内耳は手術の低年齢化だけでなく、両耳装用も珍しくなくなってきている。時代は多様な聴覚障害児への聴覚活用を求めているが、ハビリテーション・療育・教育の現況は必ずしも充分ではない。そこで今一度、基本に立ち返り、聴覚障害児にとっての聴覚活用の意義を「情動交流・環境認識・コミュニケーション・言語習得」の視点から考察し、その発達と学習を育む関わりを紹介する。

12:00 昼食

13:00 難聴者の方から「見る事と、聞く事の活用方法」

中村 馨章 (東京藝術大学日本画博士後期課程)

私は先天性難聴者で、1歳の時に補聴器装用を開始しました。東京藝術大学に入る前には全く聞こえなくなったため、2012年12月に人工内耳の手術を受けました。講演では、音入れ後の「会話」「思考」「空間認知」の変化について、私の経験を通してお話を進めていこうと考えています。

14:00 休憩

14:15 人工内耳アップデート 「最新の人工聴覚器」

城間 将江 (国際医療福祉大学)

15 : 15 まとめ